

## カンキツ類の新梢害虫の防除体系

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

担当者：行徳 裕

### 研究のねらい

かんきつ類の品種更新を行う場合、ミカンハモグリガ、ハマキムシ類、アゲハ類およびアブラムシ類等の新梢害虫を総合的に防除する必要がある。さらに、効果の高い薬剤を連用すると抵抗性の発達を助長するため、系統の異なる薬剤の輪用による新梢害虫の防除体系を検討した。

### 研究の成果

- 1 調査には、クロロニコチニル剤（アドマイヤーSC・モスピラン水溶剤）・カーバメート剤（オリオン水和剤）及び IGR 剤（カスケード乳剤・ノーモルト乳剤）を使用した。
- 2 ミカンハモグリガに対してはクロロニコチニル剤、カーバメート剤、IGR 剤が有効である。
- 3 アブラムシ類に対してはクロロニコチニル剤とカーバメート剤が有効である。
- 4 ハマキムシ類にはカーバメート剤が有効である。
- 5 アゲハ類に対してはカーバメート剤が有効である。
- 6 クロロニコチニル剤とカーバメート剤の輪用はミカンハモグリガに対して高い効果が認められる。
- 7 クロロニコチニル剤とカーバメート剤の輪用は、新梢害虫の総合防除体系として有効である。

### 普及上の留意点

カーバメート剤を散布した場合は、5~7日後に次の農薬を散布する。クロロニコチニル剤を散布した場合は10~14日後に次の農薬を散布する。

表1 抵抗性ミカンハモグリガに対する各種薬剤の効果<sup>a)</sup>

農薬名	濃度	被害葉率%	被害指数
オリオン水和剤	1,000	49.3 ( 1.3 )	8.7
アドマイヤーSC	4,000	0 ( 0 )	0
ノーモルト乳剤	2,000	78.7 ( 14.0 )	18.8
カスケード乳剤	4,000	79.5 ( 9.3 )	16.4
無 散 布		97.3 ( 96.7 )	94.1

a) 7日間隔4回散布の効果

b) ( )内は実害のある被害葉の割合%

表2 アゲハ類に対する各種薬剤の殺虫効果

農薬名	濃度	殺虫率%
オリオン水和剤	1,000	77.8
ノーモノレット乳剤	2,000	33.3
無 散 布		0

表3 ハマキムシ類に対する各種薬剤の殺虫効果

農薬名	濃度	殺虫率%
オリオン水和剤	1,000	100
ピニフェート乳剤	1,500	45.5
無 散 布		0

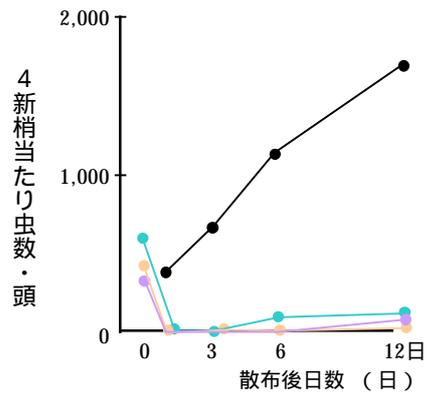


図1 ワタアブラムシに対する各種薬剤の防除効果

- 無散布
- モスピラン水溶剤2,000倍
- アドマイヤーSC 2,000倍
- オリオン水和剤1,000倍

表4 ミカンハモグリガに対するクロロニコチニル剤・カーバメート剤輪用体系の効果

散布月日と農薬 <sup>a)</sup>				被害葉率%		被害指数
7/18	7/26	8/1	8/8			
A	-	0	A	30.7	( 2.0 ) <sup>b)</sup>	6.1
M	-	0	M	14.6	( 0.7 )	2.6
A	-	A	-	3.3	( 0 )	0.6
M	-	M	-	4.7	( 0 )	0.8
0	0	0	0	55.3	( 6.7 )	12.1
-	-	-	-	96.0	( 90.0 )	87.0

a) A アドマイヤーSC4,000倍

M モスピラン水溶剤2,000倍

0 オリオン水和剤1,000倍

- 無散布

b) ( )内は実害のある被害葉の割合%